

空気と水のお医者さん **株式会社平和エアテック**

私たちは空気と水を通して、いつも素晴らしい環境を見つめるホームドクターでありたいと思います！



# 環境活動レポート

(対象期間：2023年1月1日～2023年12月31日)

空気と水のお医者さん



株式会社 **平和エアテック**

発行日 2024年3月3日

代表取締役 相川 守

## ■計画の策定 (1) 組織の概要

- 事業者名 株式会社平和エアテック
- 代表者氏名 相川 守
- 所在地 本 社: 静岡県熱海市青葉町3-9  
工 場: 静岡県熱海市紅葉ガ丘町17-21  
沼津本部: 静岡県駿東郡清水町久米田61-18
- 事業内容 空気調和換気設備の設計施工  
冷凍冷蔵設備の設計施工  
給排水衛生設備の設計施工  
汚水処理施設、水道施設の設計施工  
浴場濾過装置、プール濾過装置の設計施工  
オール電化等各種住宅設備設計施工  
地中熱・排熱回収設備の研究及び設計施工  
上記各施設、機器の保守点検整備、修理施工
- 従業員数 23名 (2023年12月31日現在)
- 環境管理責任者 相川 毅
- 連絡先 TEL (0557)82-8231  
FAX (0557)82-6441  
(e-mail: info@heiwaairtec.com)
- 建設業許可 管工事業  
静岡県知事許可(特-3)第1740号  
電気工事業・機械器具設置工事業・水道施設工事業  
静岡県知事許可(般-3)第1740号

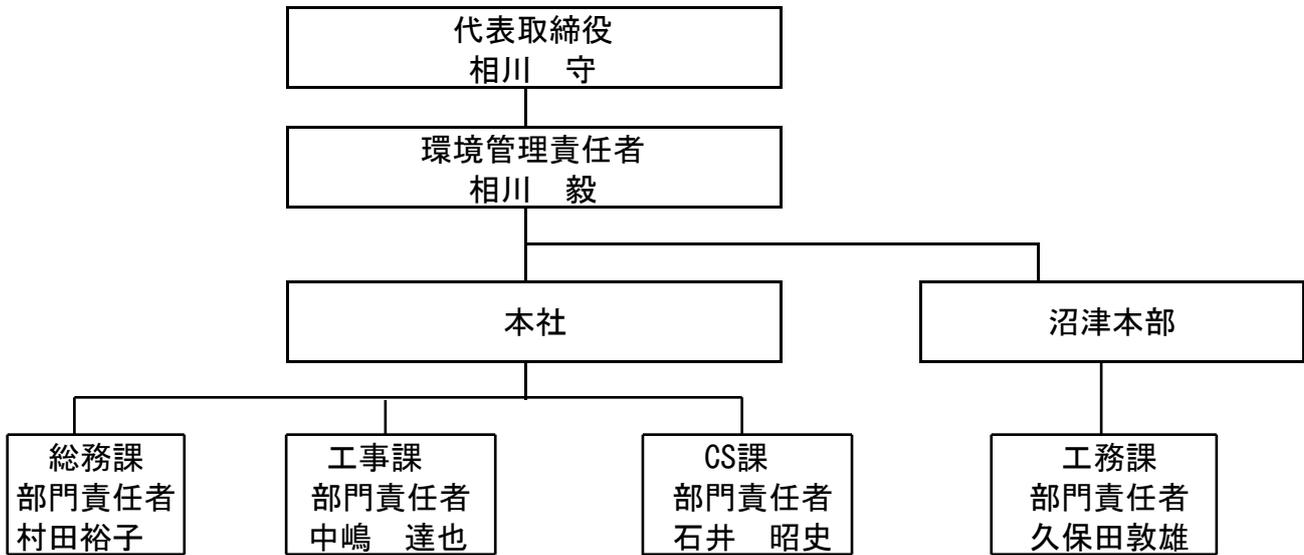
- 事業の規模 ① 設立 昭和40年2月22日  
② 事業規模

活動規模	単位	2021年	2022年	2023年
売上高	百万円	724	567	687
従業員	人	21	22	22
床面積	本社㎡	624	743	743
	本部㎡	321	321	321

- 事業年度 2月1日～1月31日
- 有資格者 (2021年12月)
- |                 |      |
|-----------------|------|
| 建築設備士           | 1 名  |
| 工学会設備士(空調・衛生)   | 2 名  |
| 1級管工事施工管理技士     | 8 名  |
| 2級管工事施工管理技士     | 6 名  |
| 1級冷凍空気調和機器施工技能士 | 12 名 |
| 2級冷凍空気調和機器施工技能士 | 1 名  |
| 建築物環境衛生管理技術者    | 3 名  |
| 第二種冷凍機械製造保安責任者  | 1 名  |
| 第二種電気工事士        | 8 名  |
| 第一種冷媒フロン類取扱技術者  | 5 名  |
| 冷媒フロン回収技術者      | 9 名  |
| 冷凍空調基幹技能者       | 3 名  |
| 消防設備士           | 2 名  |
| 2級建築士           | 2 名  |
| 給水装置工事主任技術者     | 5 名  |
| 下水道排水設備工事責任技術者  | 4 名  |

■計画の策定 (2) 対象範囲

- 対象範囲 **全社・全部門**
- レポート対象期間 **2022年1月1日～2022年12月31日**
- 実施体制



担当	役割・責任・権限
代表者 相川 守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコアクション21に関する代表責任者</li> <li>・エコアクション21実施における人材、設備、費用を用意する</li> <li>・環境経営管理責任者の任命を行う</li> <li>・環境経営方針の制定、改訂及び全社員への周知</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施する。</li> <li>・環境経営マネジメントシステムの承認</li> <li>・経営の課題とチャンスの明確化</li> </ul>
環境管理責任者 相川 毅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営マネジメントシステム全体の構築、運用、維持に関する実務上の権限を有する</li> <li>・代表者への報告</li> <li>・環境経営マネジメントシステムの承認構築、実施及び運用管理</li> <li>・環境事務局の文書作成案に対するチェック及び改訂の指示</li> <li>・エコアクション21における文書の作成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営項目及び環境経営活動計画案の作成</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況のチェック</li> <li>・取組に必要な場合の手順書案</li> <li>・事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策の策定</li> <li>・環境負荷の自己チェック、取組の自己チェックの実施</li> </ul> </li> <li>・環境経営レポートの作成</li> </ul>
部門責任者 中嶋達也・石井昭史 久保田敦雄 村田裕子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部門における環境経営マネジメントの実施</li> <li>・各記録の実施</li> <li>・問題点のチェック及び予防処置の実施</li> <li>・緊急事態の試行及び訓練の実施</li> </ul>
全社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針の確認・理解</li> <li>・各個人における環境経営マネジメントシステムの実施</li> </ul>

## ■ 計画の策定 (3) 環境経営方針

### ■ 企業理念

株式会社平和エアテックは、設備工事の事業活動を通じ地球環境を守るための環境に配慮した工事およびメンテナンスを積極的に取り組む企業を目指します。

### ■ 環境方針

1. 事業活動が環境に与える影響を把握し、環境保全に視点を置いた活動を推進致します。
  - ① CO2削減の為の省エネ活動に取り組みます。
  - ② 事業所及び現場で発生した廃棄物削減活動と再資源化推進活動に取り組みます。
  - ③ 地中熱・排熱回収事業の早期事業化と脱炭素事業の推進に取り組みます。
  - ④ 環境に配慮した商品を積極的に提案しユーザーの省エネ化に努めます。
  - ⑤ ITを駆使した働き方改革・時間短縮・効率化を推進します。
2. 環境に配慮した活動の目標を設定し、環境目標の達成状況及び活動計画の実施状況を定期的に確認・評価し、環境経営管理システムを継続的に改善致します。
3. 環境に関する法規制及び協定を遵守致します。
4. 事業の効率化を推進するために、作業・技術の標準化を進めると同時に先端技術の活用と教育システムの充実に取り組みます。
5. 全社員が環境経営方針を理解し、それを周知徹底すると共に、この方針を掲示し社員教育を計画的に実施し、環境問題への意識向上を図ります。

制定年月日 2011年10月 1日

改訂年月日 2022年10月 1日

株式会社平和エアテック

代表取締役 相川 守

## 4 中期環境経営目標

電力二酸化炭素換算係数：2023年度東京電力(0.457)

	項目	単位	2022年度	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標
			基準年(実績) 2022.1~2022.12	2023.1~2023.12	2024.1~2024.12	2025.1~2025.12
二酸化炭素	事業所及び資材置き場での二酸化炭素削減	Kg-CO2	65,465	-2%	-3%	-3%
	購入電力	KWH	37,960	-2%	-3%	-3%
	ガソリン	L	20,881	-2%	-3%	-3%
	都市ガス	Nm3	24	-	-	-
廃棄物	一般廃棄物の削減	t	1.88	-2%	-3%	-3%
	建設副産物リサイクル率向上	%	83.5%	70%	75%	75%
水道使用量の削減		m3	220	-	-	-
フロンガス回収の徹底		%	100	100	100	100
新規顧客・既存客別分野開拓 (ニュースレター送付による)		件	167	+10	+20	+20
フロン漏洩点検顧客獲得件数		件	48	+10	+20	+20
リモート監視システム導入件数		件	1	3	10	20
排熱・地熱利用システムの導入件数		件	1	2	5	5

※ 新本社建設に伴い、基準を2022年に変更した

※ 都市ガス・水道使用量については、排熱回収実験に用いるため、目標を2024年度基準に変更予定

※ 2024年は本社新築後丸一年を経過したため、基準年を2023年に変更し、目標を3年後まで設定します。

また、今回2025年度の目標数値は、基準年を変更するので2024年時点で削減目標量を増やします。

### 環境経営計画

- 省エネ補助金を利用した、お客様設備に関する省エネ提案の推進(5件)
- 高付加価値商品(省エネ性能・温暖化係数の低いフロンガス使用機器)の販売促進(販売料の30%)
- ICT・IOT等を活用したリモート監視システム導入の促進(5件)
- IT化による社内ペーパーレス化、リモート会議等による移動等の削減を実施(強化)
- 出退勤管理のIT化を用いた、残業の削減と働き方改革の実施(2020年4月導入済・有効活用による働き方改革へ)
- 新規車両購入時の安全装置・燃費効率の高い車両の選択(随時)
- 測定機器の積極導入により、故障・メンテナンス時の効率アップ(2021年1月実施)
- 排熱利用・地熱利用による冷暖房等システムの販売に向けた取り組みを強化する

運用期間（2023年1月～2023年12月）の実績と取組結果の評価

電力二酸化炭素換算係数：2023年度東京電力(0.457)

	項目	単位	2022年度	2023年度	2023年度	評価
			基準年 2022.1～2022.12	目標値 2023.1～2023.12	実績 2023.1～2023.12	
二酸化炭素	事業所及び資材置き場での二酸化炭素削減	Kg-CO2	65,465	64,150	65,705	×
	購入電力	KWH	37,960	37,200	34,951	○
	ガソリン	L	20,881	20,460	21,678	×
	都市ガス	Nm3	24	-	41	-
廃棄物	一般廃棄物の削減	t	1.88	1.84	1.89	△
	建設副産物リサイクル率向上	%	83.5%	70%	85.2%	○
	水道使用量の削減	m3	220	215	242	-
	フロンガス回収の徹底	%	100	100	100	○
	新規顧客・既存客別分野開拓 (ニュースレター送付による)	件	167	+10	+2(169件)	△
	フロンガス漏洩点検顧客獲得件数	件	48	+10	+13(51件)	○
	リモート監視システム導入件数	件	1	3	0	×
	排熱・地熱利用システムの導入件数	件	1	2	1	△

取組結果の評価

<評価【×】項目の原因と対策>

●Co2削減については、ガソリン及び都市ガスの利用量の増加が原因である。ガソリンについては現場移動が多く削減ができなかった。今後低燃費車両の導入・無駄な利用をなくし削減に努めたい。都市ガスについては、実験研究室を本社に併設したため、利用量が大幅増加した。今後実験がさらに必要になると思われ、増加が見込まれる。その中で、無駄な給湯を行わない。再加熱した熱を利用するなど削減努力をしていく。

●リモート監視システムの導入件数については、提案（7件）をしているものの、コスト・必要不可欠ではないことから実施に結びついていない。今後排熱システムの導入と連携して、省エネ等見える形での提案を進いく。

<評価【△】項目の原因と対策>

●一般廃棄物の削減については、まだまだ紙の使用量が多いため、DX化を進めて削減に努めていきたい。

●ニュースレター送付によるお客様開拓については、お客様へのアピール不足により新規獲得が2件にとどまった。今後はニュースレターの内容を再検討しながら、お客様にとって必要な情報提供を進めていく。

●排熱・地熱利用システムの導入件数について、提案の依頼はいただいているが、技術を持った社員育成が遅れていて、導入までたどり着けていない。今後は技術講習会を通していち早く実践態勢をつくり、実績増加を図る。

<その他>

●都市ガス・水道使用量については、新本社建設後年間使用が初めてとなり、評価は無しとした。また、排熱回収分野の仕事を増やすにあたり、ガス・水道については、目標・評価方法を検討中

●電力については、太陽光発電の効果及び本社の断熱性向上により削減できた。また、電力についても新本社での業務を初めて1年間を通して使用したので、来期は目標の設定を今期基準に変更予定である

●建設副産物リサイクル率については、詳細を調べた上で今後上昇を目指す

●新規車両購入時の安全装置・燃費効率の高い車両の選択は実施されている

●測定機器の導入によるメンテナンス時の効率アップのため新本社建設に伴い多くの測定器を導入した。

●排熱回収利用システム・地熱回収利用システムの研究開発・販売を通してさらなる環境保全に取り組んでいきたい。新本社には実験・研究・体感施設があり、積極的に進めていく。

以下の環境経営計画については、次の通り

■省エネ補助金を利用した、お客様設備に関する省エネ提案の推進→昨年に比べ提案が少なかった。今期は改善したい。

■高付加価値商品（省エネ性能・温暖化係数の低いフロンガス使用機器）の販売促進（販売料の30%）→実行できた

■ICT・IOT等を活用したリモート監視システム導入の促進→お客様の要望が多くなりつつある。今期は大幅増を目指す

■IT化による社内ペーパーレス化、リモート会議等による移動等の削減を実施→進めているがまだまだと感じる

■出退勤管理のIT化を用いた、残業の削減と働き方改革の実施→見える化を実施、2024年問題への対策急務

■新規車両購入時の安全装置・燃費効率の高い車両の選択→継続実施中

■測定機器の積極導入により、故障・メンテナンス時の効率アップ→新本社竣工に伴い、導入を進めた

■排熱利用・地熱利用による冷暖房等システムの販売に向けた取り組みを強化する→2024年が飛躍の年

<次年度について>

新本社での業務が1年を超え、来期には再度目標の設定（3年後まで）をしっかりとしたい。

中期環境経営活動計画

目的	区分	項目	担当	活動項目	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素の削減	購入電力	照明	村田 及川	①消灯の徹底	○	○	○
				②点灯タイマー時間の管理(センサーライトへの変更)	○	○	○
		空調	中嶋 小林	①温度設定 夏28° 冬21°	○	○	○
				②クールビズ、ウォームビズ(空調服導入)	○	○	○
				③フィルター定期清掃	○	○	○
				④使用していないエリアの空調停止	○	○	○
				⑤エコシルフィー使用による省エネ	○	○	○
		O A	村田 及川	①不必要時のパソコン電源切り	○	○	○
				②スイッチオフによる待機電力の削減	△	△	△
		その他	村田	①充電式電池の使用	○	○	○
	ガソリン	作業車	久保田	①エコドライブ	○	○	○
				②エコ整備	○	○	○
				③日常・定期点検の実施	△	△	○
				④省エネ・安全装置搭載車の導入	○	○	○
⑤ドライブレコーダー搭載と確認				○	○	○	
公共工事 50百万円	削減計画 立案	適宜	①施工計画に削減計画反映と活動展開	-	-	-	
廃棄物のリサイクル	事務所	中嶋 久保田	①コピー用紙の両面使用	△	○	○	
			②封筒・ファイルの再利用	○	○	○	
			③本社・本部間のやりとりの電子化	△	○	○	
			④廃棄物の分別とリサイクル	△	△	△	
			⑤3Rの実践	○	○	○	
			⑥使い捨て製品の購入を抑制	○	○	○	
			⑦廃棄物の置き場を設置(直置き禁止)	△	△	△	
	建設副産物のリサイクル	中嶋	①廃棄物の分別化	○	○	○	
			②分別ルート新規開拓	△	△	△	
			③仮設資材、用具のリユース化	○	○	○	
節水	上水	平野 小林	①節水表示	○	○	○	
			②ストップガンの取り付け	○	○	○	
			③節水こまの取り付け	○	○	○	
			④漏水点検の定期的実施	○	○	○	
フロン回収再生		小林	①フロン排出抑制法に則り徹底回収	○	○	○	
			②フロン漏洩点検の告知及び実施	○	○	○	
			③フロン類回収行程管理票による処理	○	○	○	
			④フロン類の回収後再生の推進	○	○	○	
新規顧客・既存客別分野開拓		適宜	①高効率空調・換気・給湯の設計提案	○	○	○	
			②補助金を活用した高効率機器への更新提案	○	○	○	
			③ニュースレター及びメーリングリストによる新規提案	△	△	△	
			④フロン漏洩点検実施の提案	○	○	○	
			⑤ニュースレター・メーリングリスト配布先データ取得	○	○	○	
			⑥設備保守リモート監視システム提案	○	○	○	
			⑦地中熱・排熱利用空調・給湯システムの提案	△	△	○	
その他		適宜	①出退勤管理システムの活用による時間短縮	○	○	○	
			②ICT活用による保守メンテナンス効率化	○	△	○	

計画の評価と後半取組

目的	項目	活動項目	評価		今後の取組
			評価	内容	
二酸化炭素の削減	照明	①消灯の徹底	○	徹底されている	継続
		②点灯タイマー時間の管理(センサーライトへの変更)	○	徹底されている	継続
	空調	①温度設定 夏28° 冬21°	○	徹底されている	継続
		②ケルピズ、ウォームピズ(空調服導入)	○	空調服導入・各自工夫あり	継続
		③フィルター定期清掃	○	徹底されている	継続
		④使用していないエリアの空調停止	○	徹底されている	継続
		⑤エコシルフィー使用による省エネ	○	実施している	継続
	O A	①不必要時のパソコン電源切り	○	実施されている	継続
		②スイッチオフによる待機電力の削減	△	待機電力状態の機器がある	徹底する
	その他	①充電式電池の使用	○	徹底されている	継続
	作業車	①エコドライブ	○	徹底されている	継続
		②エコ整備	○	徹底されている	徹底する
		③日常・定期点検の実施	△	車輛管理者により不備あり	徹底する
		④省エネ・安全装置搭載車の導入	○	入替時に選定している	継続
		⑤ドライブレコーダー搭載と確認	○	運転等に効果が出ている	継続
	削減計画立案	①施工計画に削減計画反映と活動展開	-	該当工事なし	物件発生時対応
	廃棄物のリサイクル	事務所	①コピー用紙の両面使用	○	すべての書類で対応可能となった
②封筒・ファイルの再利用			○	徹底されている	継続
③本社・本部間のやりとりを電子化する			○	可能な範囲で実施している	開始
④廃棄物の分別とリサイクル			△	まだできる部分がある	継続
⑤3Rの実践			○	再利用できている	継続
⑥使い捨て製品の購入を抑制			○	可能な範囲で実施されている	継続
⑦廃棄物の置き場を設置(直置き禁止)			△	一部直置きされている	継続改善する
建設		①廃棄物の分別化	○	進んでいる	継続
		②分別ルート新規開拓	△	開拓できず	検討
		③仮設資材、用具のリユース化	○	徹底されている	継続
節水	上水	①節水表示	○	徹底されている	継続
		②ストップガンの取り付け	○	取付済み	継続
		③節水こまの取り付け	○	取付済み	継続
		④漏水点検を定期的実施	○	漏水なし	継続
フロン回収再生	①フロン排出抑制法に則り徹底回収	○	徹底されている	継続	
	②フロン漏洩点検の告知及び実施	○	徹底されている	継続	
	③フロン類回収行程管理票による処理	○	徹底されている	継続	
	④フロン類の回収後再生の推進	○	徹底されている	継続	
新規顧客・既存客別分野開拓	①高効率空調・換気・給湯の設計提案	○	提案多数	継続	
	②補助金を活用した高効率機器への更新提案	○	提案あり	継続	
	③ニュースレター及びメールマガジンによる新規提案	○	実施されている	継続	
	④フロン漏洩点検実施の提案	○	徹底されている	継続	
	⑤ニュースレター・メールマガジン配布先データ取得	○	増加している	既存客100%を目指す	
	⑥設備保守リモート監視システム提案	○	提案を始めている	導入へ	
	⑦地中熱・排熱利用空調・給湯システムの提案	△	実験を順次進めていく	導入へ	
その他	①出退勤管理システムの活用による時間短縮	○	順次進めている	継続	
	②ICT活用による保守メンテナンス効率化	△	システム使用方法のテスト中	時間削減に繋げる	

## 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### 1.環境関連法規の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

法規・条例・規制	適用内容または規制基準値	備考	確認日	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 静岡県産業廃棄物適正な処理に関する条例	廃棄物排出事業所との委託契約	契約(書)の締結	2023.1.5	○
	マニフェストの管理	D票、E票の返却	2023.12.27	○
	マニフェストの期間内返却	90日以内又は180日以内	2023.12.27	○
	マニフェストの保管	5年間	2023.12.27	○
	投棄禁止	不法投棄を行わない	2023.12.27	○
	廃棄物の悪臭・飛散防止	車両荷台にシートを被せる等	2023.12.27	○
	保管場所への掲示	60cm×60cm以上掲示	2023.12.27	○
	マニフェストの年間集計と知事への報告	6月30日までに提出	2023.6.23	○
	産業廃棄物管理責任者の選任	相川 毅	随時	○
	処分場の実地確認	セキトランスシステム	2023.4.10	○
建築リサイクル法	建設副産物のリサイクル	工事計画書・実績報告	2023.12.28	○
騒音・振動規則法	特定作業規制	指定地域・時間帯規制	2023.12.27	○
	特定作業規制	指定地域・時間帯規制	2023.12.27	○
家電リサイクル法	指定家電の収集	エアコン・冷蔵庫 他	随時	○
PCリサイクル法	OA機器の収集	パソコン・モニタ 他	2023.12.27	○
地球温暖化対策推進法	温室効果ガス抑制措置	自治体施策へ協力	2023.12.27	○
	3Rへの努力	廃棄物等の内、有用な物の循環的な利用を促進	2023.12.27	○
グリーン購入法	環境物品の購入及び工事材料提案	事業者の一般的責務/工事計画書	2023.12.27	○
自動車リサイクル法	引取業者への引渡し	リサイクル料金の支払い	随時	○
フロン排出抑制法	業務用エアコン簡易点検	設置機器の漏えい簡易点検(3ヶ月に一度)	2023.12.27	○
	関係書類の発行、管理	漏えい簡易点検・定期点検報告書の発行・管理	随時	○
	回収・充填・破壊量の記録、報告	3月31日まで分をに県に報告	2023.3.31	○
高圧ガス保安法	高圧ガス販売許可	高圧ガス容器の点検	2023.1.6	○
熱海市一般廃棄物処理に関する条例	一般廃棄物の分別搬出		2023.12.27	○
清水町一般廃棄物に関する条例	一般廃棄物の分別搬出		2023.12.27	○
消防法	消防設備設置届の提出		2023.12.27	○
水道法	給水装置資格者の申請、検査立会		2023.12.27	○
下水道法	配水設備資格者の申請、検査立会		2023.12.27	○

遵守評価日：2023年12月27日

### 2.違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありませんでした。

環境コミュニケーション受付表

No	情報入手日	情報種類	内容詳細	情報源	入手方法	回答の必要性	対応内容
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	
		(対策/苦情)			(TEL/メール)	(必要/不要)	

※ 2023年の活動に環境上の苦情等はありませんでした。

## 環境上の緊急対策

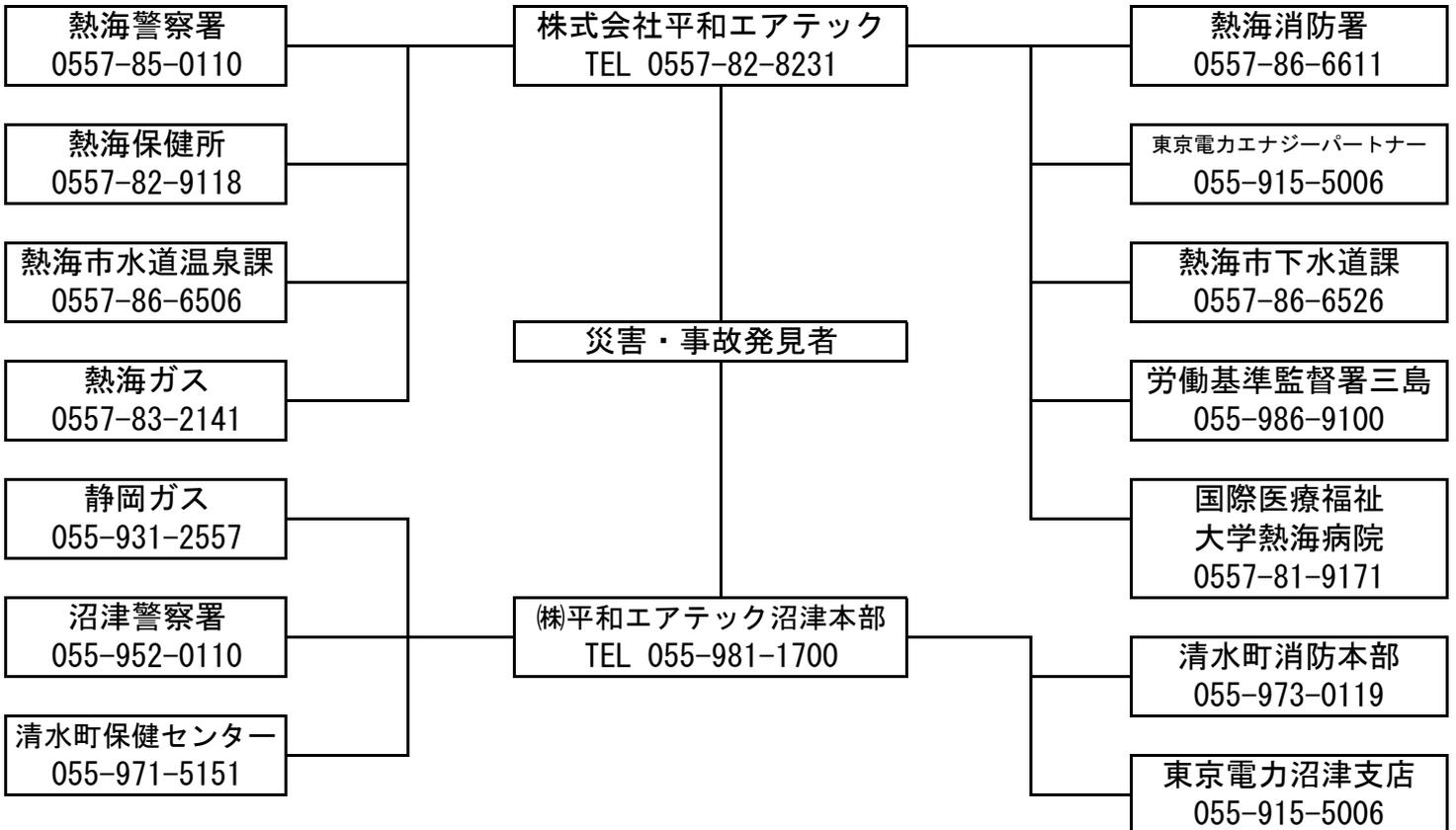
訓練実施日 2023年12月27日

項目	想定される緊急事態	対応	訓練	結果
火災	・ 酸素、窒素、アセチレン、フロンボンベなど可燃性ガス漏洩による火災	・ 初期消火の実施 ・ 消防署に連絡 ・ 避難の勧告	・ 消火器の設置管理 ・ 消火器の有効期限確認 ・ ボンベ等転倒防止の確認 ・ ホース、バルブの漏洩検査 本社(8)・本部(2)、参加者10名	OK OK OK OK
酸欠	・ フロンガス漏洩による酸欠状態	・ 換気作業 ・ 酸素濃度測定 ・ 消防署に連絡	・ 換気装置の作動確認 ・ フロンボンベの使用期限確認 ・ フロンボンベの漏洩検査 ・ 室温40℃以下での保管 本社(8)・本部(2)、参加者10名	OK OK OK OK
上水漏れ	・ 配管破裂 ・ 水栓不良	・ 止水栓を閉鎖 ・ 水道課に連絡 ・ 利用水の確保	・ 配管の目視点検 ・ 水栓全閉鎖の後量水器確認 ・ パッキン類の不良確認 本社(8)・本部(2)、参加者10名	OK OK OK

※対応策有効性の検証について

対応策の有効性については、訓練等の確認により変更の必要はありません。

## 緊急連絡網



## 2023(2023.1～2023.12)年度教育記録

No.	年月日	主催・会場	教育名	講師	教育内容	対象者(参加者)	備考
1	2023/2/1	本社・本部 (TV会議)	新年度の目標	社長	2023年(第59期)の目標・方針発表	全員	プロジェクター・資料
2	2023/3/4	本社2階	経営方針発表会	社長	前期結果・お客様アンケート結果・59期詳細 方針・目標確認・社員表彰	全員	プロジェクター・資料
3	2023/4/14	本社	エコ・アクション反 省と目標	専務	未達成目標について	全員	
5	2023/9/15	本社2階	エコキュート基礎	小林	エコキュートの見積と工事について	現場担当者	プロジェクタ・実機
6	2023/12/3	本社・本部 (TV会議)	安全運転教育	専務(安全運 転管理者)	ドラレコ画像より 安全運転管理者法定講習会で学んだこと	全員	プロジェクター・PC
7	2023/12/28	本社	上水漏・火災・酸 欠訓練	専務(環境管 理責任者)	1.漏水検査(メーター確認) 2.止水栓閉鎖、連絡先の確認 3.消化器の期限確認 連絡先の確認	本社	特に問題無し
8	2023/1/13他 全12回	本社	HGS会議	HGSメンバー	HGS(HeiwaGrowingSchool)新人育成プラン における現状及び方針の打合せ	HGS委員会	スキルシート
9							
10							

## 代表者による全体の評価と見直し・指示

### 全体の評価

システムの有効性については、実際の活動に即し非常に役に立っている。また、本年基準値を2022年度に変更したが、新本社の建設中の時期があり、本来の基準値とはならない為、再度基準年を本年度に変更する必要性が出て来た。新本社は延べ床面積こそ倍近くなつたが、断熱性能の向上、省エネ機器の導入、太陽光発電の採用を行い購入電力の低減を計ったが、実際は思った程購入量が減っていない。実験装置の使用や地中熱輻射冷暖房の電力使用量の実績値を調査する必要があると同時に本社並びに本部の使用量についても詳細検討が必要と思われる。環境経営方針の部分の充実については今後も時代の変化即応型の企業を目指す。法令については、継続して遵守されている。

昨年度から行っている取組としてIT・IoTを屈指したリモート監視や、保守業務に関してもDXによる効率化を計っていく。

お客様に体感してもらえる施設として、リモート監視、地中熱・排熱利用の実験研究が出来る施設を新本社に設置し運用を開始しているが、見学を希望されるお客様に対して準備不足（人員不足）のため、対応出来ていない部分がある。

当社は本年創業60年、これからも「熱」をテーマとした環境負荷を削減する企業となるべく、ひとつづくり・ものづくりに邁進していきます。

### 代表者の指示内容

環境経営方針・実施体制は継続とする

環境経営計画については以下の点を見直しとする

環境経営目標については2023年を基準年として、これまでと同様の削減を目指す

### 見直し指示

目標については、2022年同様の削減を目指す。新本社が正式に稼働を始めたので、基準年を再度変更する。また、沼津本部の省エネ化を促進し、本社、工場、本部における個々の詳細についても再度目標を検討する。

全体評価でも書いたが、新本社は規模が倍近くなつたが断熱性能が高く照明の全LED化、太陽光発電導入、一部地中熱利用冷暖房により規模の割に温暖化ガス排出量低減を計ったが、詳細データを取得し結果を精査したい。

実験研究室やショールームの設置によりお客様に体感しながらPRできる環境が整ってきたので、今後は自社と共にお客様の環境負荷低減に務めるためリモート監視や地中熱・排熱回収等の「熱」事業に本格的に取り組み目標件数に近づけていきたい。

また、本業の重要な部分であるフロンガスの漏洩防止や回収再生を確実に行っていき、環境破壊防

評価日 2024年3月3日

株式会社平和エアテック  
代表取締役 相川 守